

池波正太郎

(1923~1990)

「浅草・本所・両国」 鬼平犯科帳の舞台を歩く

文川岸徹 写真 大高和康



「かど家」

東京都墨田区緑1-6-13
TEL: 03-3631-5007

「二ツ目橋の『五鉄』という軍鶏なべ屋へ入って、熱い酒をのませると、平蔵が何を問うたわけでもないのに、油紙へ火がついたように、へらへらとしゃべりはじめた。」
『鬼平犯科帳 第1巻 本所・桜屋敷』(文藝春秋)

「浅草寺」

その人に出会ったのは浅草観世音(金龍山・浅草寺)の境内であった。おまさは、山之宿のほうから境内へ入り、本堂へ参詣をすませに王門へ向って歩きはじめた。
『鬼平犯科帳 第5巻 女賊』(文藝春秋)



東京都台東区浅草2-3-1

「大横川」



横川を北へ……入江町の河岸を左にながめつつ、舟はゆつくりとすすむ。やがて、右手に法恩寺の大屋根が見え、そして、舟は出村町へさしかかった。
『鬼平犯科帳 第1巻 本所・桜屋敷』(文藝春秋)



東京都墨田区

「春慶寺」

十七歳の折に左馬之助は好きな剣術の修行をおもいたち、江戸へ出て、押上の春慶寺へ寄宿し、本所の高杉道場へ通い、ここで長谷川平蔵と親交をむすぶにいたった。
『鬼平犯科帳 第8巻 明神の次郎吉』(文藝春秋)



東京都墨田区業平2-14-9

「アンヂエラス」



帰りぎわには「アンヂエラス」へ寄つて、ダッチ・ヒー。これはもう、習慣のようなものになつてしまった。
『散歩のとき何か食べたくなつて』(新潮社)

東京都台東区浅草1-17-6
TEL: 03-3841-2208



観光客で常にごった返しているが、その賑やかなムードは物語の舞台にふさわしい。近くには池波正太郎が通い詰めた喫茶店「アンヂエラス」がある。池波正太郎は必ず、水出しのダッチ・ヒーを注文し、時には梅酒を混ぜて飲んだという。

隅田川を越えた本所エリアには、鬼平の剣友・岸井左馬之助が寄宿していた「春慶寺」や、鬼平が舟でたびたび行き来する「大横川」がある。大横川は現在、親水公園として整備されており、暑い夏に涼を取りながら散歩を楽しむことができる。

そして鬼平は、美食家でもあった。小説では鬼平が「五鉄」という店で軍鶏鍋を食べる様子が描写されている。その店のモデルといわれるのが、両国駅近くにある「かど家」。6代目女将の馬場英美さんに聞くと、「先代の女将の頃、池波先生がよくいらしたそうです。軍鶏鍋をつつきながら、お酒をたくさん召し上がって……とのこと。鬼平は池波正太郎自身——そう強く感じた。鬼平散歩だった。」